スケトウダラ（オホーツク海南部）①

スケトウダラは北太平洋に広く生息し、本評価群はこのうちオホーツク海南部に分布する群である。本資源の漁獲量等は漁期年（4月～翌年3月）の数値を示す。

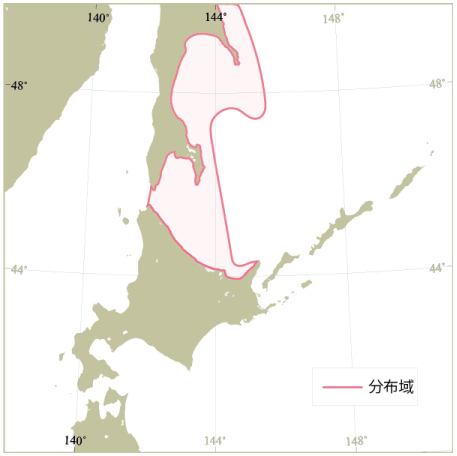

図1　分布図

本資源は日本水域とロシア水域に連続的に分布し、成長の一時期に日本水域に来遊する「跨り資源」である。

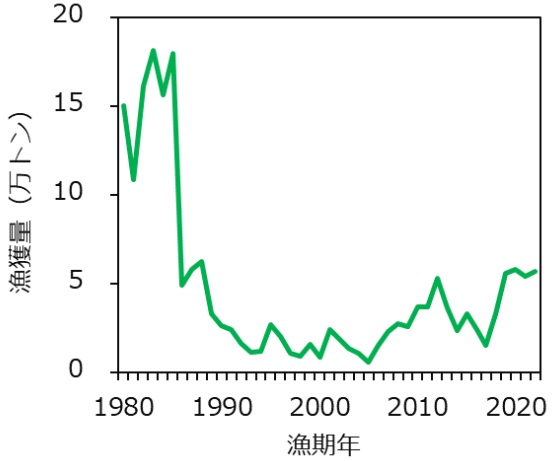

図2　漁獲量の推移

本資源の我が国による漁獲量は、ソビエト連邦（現ロシア連邦）の漁獲規制強化等で、1986年漁期に大きく減少した。近年の漁獲量は、ロシア水域からの来遊量に左右されると考えられ、2010年漁期以降は2万～5万トン台で推移している。2022年漁期は5.7万トンであった。

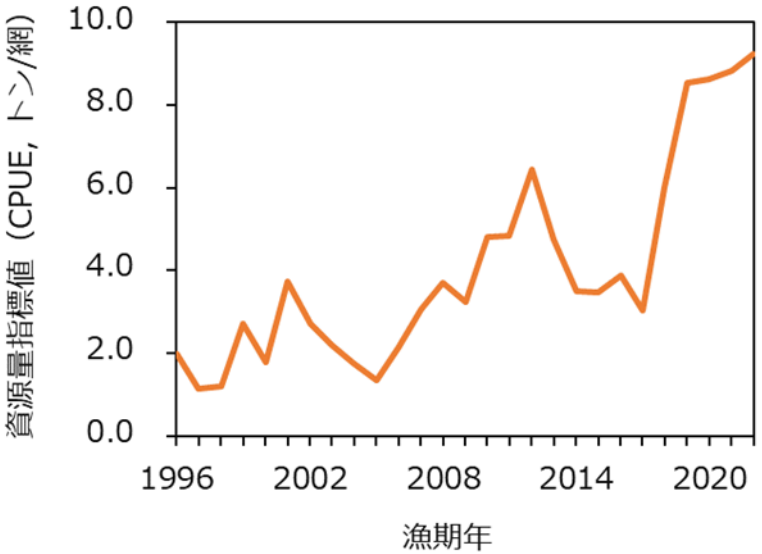

図3　資源量指標値の推移

沖合底びき網漁業のかけまわし漁法による、スケトウダラ狙い操業（1日の総漁獲量に占めるスケトウダラの割合が50%を超える日の操業）の単位努力量当たり漁獲量（CPUE）を資源量指標値とした。

スケトウダラ（オホーツク海南部）②

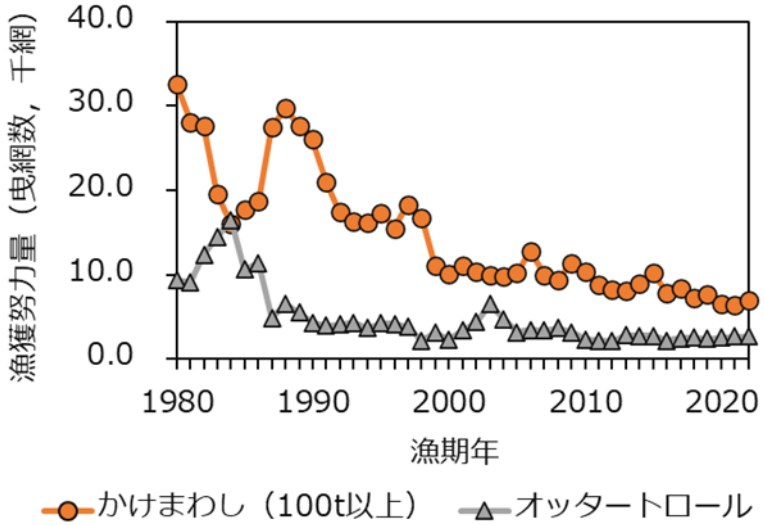

図4　漁獲努力量の推移

日本水域での漁獲の大半は沖合底びき網漁業による。減船の結果、許可隻数は1986年漁期の80隻から2016年漁期以降は14隻まで減少した。オッタートロール・かけまわし漁法のいずれにおいても、漁獲努力量は過去と比較して抑制されている。

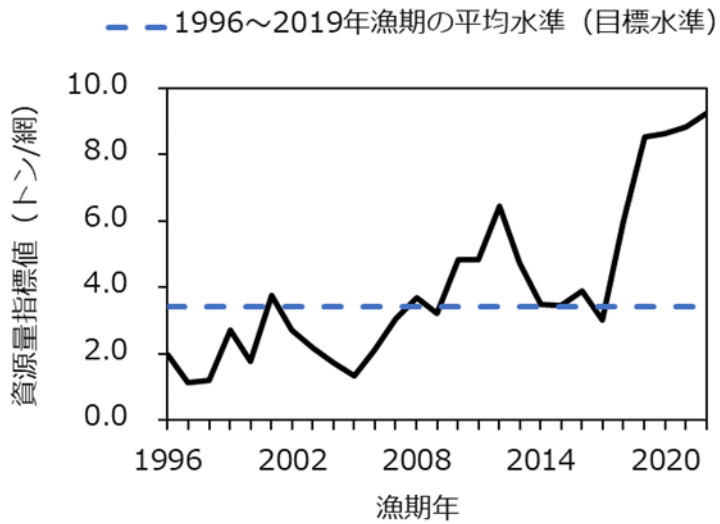

図5　資源量指標値と目標とされる水準

漁獲シナリオで定められた本資源を維持または回復させるべき目標は、1996～2019年漁期の平均水準（3.41トン/網）である。2022年漁期の資源量指標値（9.3トン/網）は、目標水準を上回り、過去最高値である。

本資源の漁獲シナリオについて

本資源の資源量指標値は日本水域における情報に限られ、「跨り資源」である本資源全体の動向を捉えることができないことから、最大持続生産量に関係する目標管理基準値や限界管理基準値を定めることは困難である。

本資源の漁獲シナリオでは、我が国の漁船による漁獲の状況等を踏まえて、我が国漁船の操業水域に分布する資源の最適利用が図られるよう漁獲を管理するとされている。